

○ノビエの防除対策についてお答えします。

○まず、水田雑草の防除対策では、除草剤散布が有効ですが、除草剤の効果を十分に発揮させるため、下記のような耕種条件を整えることが大切です。

①圃場の均平 → 圃場田面の高低差が大きいと、深水で薬害が発生したり、田面の露出部では除草効果が劣る場合があるので、耕起・代かきを丁寧に行い、圃場の均平化に努める。

②土壤条件 → 一般に薬剤の吸着が悪い砂質土壌や漏水の大きい圃場では、水稻の根に薬剤が作用して薬害が発生し易く、除草効果も低下する。また、移植後に土の戻りが悪く、根が露出したりする場合も薬害が発生し易いので注意する。

③水管理 → 除草剤の効果を最大限に発揮させるため、散布は水深3～5cm(250g/ℓ)アグロ・ジヤンボ剤・フロアブル剤等の拡散型除草剤は水深5～6cm)の湛水状態で行い、散布後7日間は水を移動させない。

④健苗の移植 → 軟弱徒長苗は除草剤の影響を受けやすく、薬害が発生しやすいので、充実度した健苗を移植することが大切である。

○次に、除草剤の使用についてですが、農薬登録された水田除草剤は下記に示すような使用基準(製品ラベル)が記載されています。また、この他にもラベルには「使用上の注意事項」「安全使用上の注意事項」が記載されていますので、よく読んで使用しましょう。

#### ● 使用基準(例)

| 作物名  | 適用雑草名   | 使用時期                      | 適用土壌            | 10a当たり使用量             | 総使用回数                                     | 使用方法                | 適用地帯      |
|------|---|---------------------------|-----------------|-----------------------|---|---------------------|-----------|
| 移植水稻 | ノビエはこれに該当します<br>水田一年生雑草、及び、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ(東北)、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 移植後5日～ノビエ2.5葉期まで、移植後30日まで | 壤土～埴土<br>砂壤土～埴土 | 小包装(パック)<br>10個(500g) | 本剤のみ:1回<br>成分A:1回<br>成分B:2回以内<br>成分C:2回以内 | 水田に小包装(パック)のまま投げ入れる | 北海道<br>東北 |

除草剤の使用時期(晩限)は、ノビエの葉齢で示されることが多いので、自分の田んぼでのノビエの生育状況(葉齢)の観察が大切ですので、下記の図を参考にしてください。なお、除草剤はこの使用時期を少しでも過ぎると、効果は大きく低下してきますので、3葉期までの一発処理剤ならば2.5葉期までに、2.5葉期までの剤ならばノビエ2葉期までに散布するなど、安定した除草効果を得るために早め早めの使用が望

ましいとされています。

(参考 : <http://www.jeinou.com/benri/rice/2008/06/100938.html>)

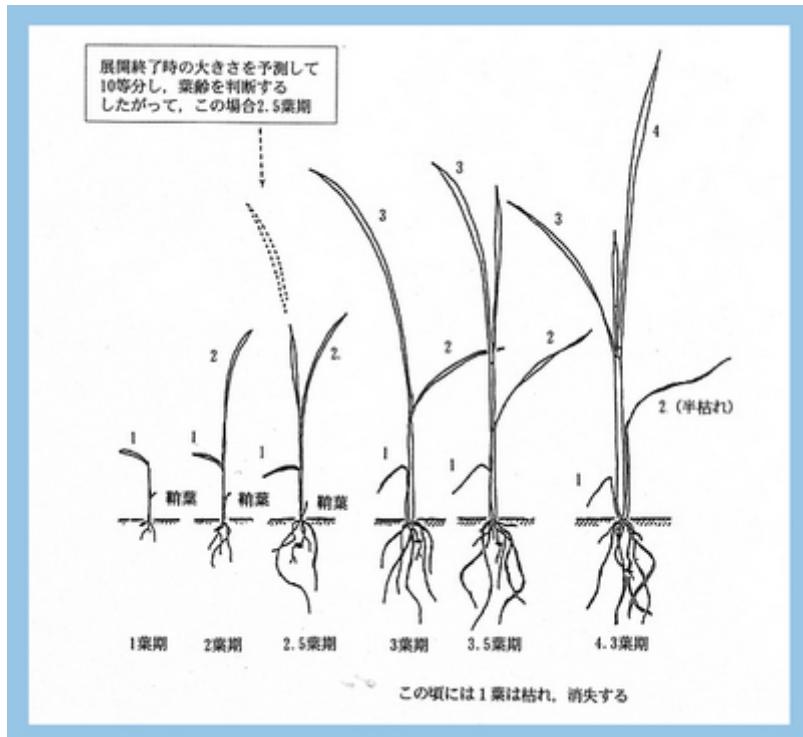


図 1. ノビエの葉齢の数え方 (出典 : 日本植物調節剤研究協会 (2002) 除草剤試験の手法 (7) - 雜草の葉齢の数え方 - . 植調 36 (3)、105-110)

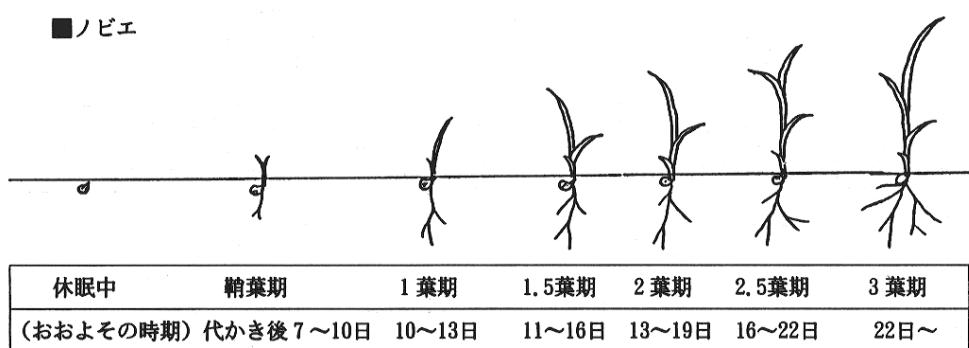


図 2. 岩手県におけるノビエの発生消長 (模式図)